

日中対訳小説における日本語と中国語の非情受身文の対応 関係について

The Corresponding relation of Japanese and Chinese Passive Voice with Inanimate Subject in Japanese-Chinese Translated Novels

陳 婧璇

Jingxuan CHEN

I はじめに

日本語の受身文に関しては、被動作主としての主語の有情性により、大きく「有情の受身」と「非情の受身」の二種類に分けられる研究が多い。韓（2010）によると、1880年代を皮切りに、文学作品内での非情受身文の増加が著しく、1940年代に40%台に達した。張（2017）は現代日本語書き言葉均衡コーパス(中納言)を利用し、調べた結果、非情受身文の使用率は68%となった。また、陳（2020）は『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』の Ver.7 を用いて、中国語母語話者日本語学習者の受身誤用分析を行った結果、「不使用」の誤用が最も現れている受身タイプはI 結果型となった。そして、I 状態変化型とI 位置変化型の誤用も多く見られた。「過剰使用」については、状態変化に関わる動詞（変化する、発展するなど）、生産・作成に関わる動詞（作る、書くなど）を用いた文は「過剰使用」が多く見られた。そこで、中国語母語話者日本語学習者に対する非情受身文の習得の困難点を明らかにし、受身の日本語教育における注意点を提示する必要がある。

本稿では、日本語と中国語の非情受身文の対応関係を明らかにすることを目的とし、中国語話者日本語学習者のための日本語教育に役に立てればと考えている。

II 先行研究

2.1 日本語と中国語の受身文の定義に関する先行研究

日本語記述文法研究会（2009）によると、日本語の受身とは動作による働きかけや作用を受ける人や物を主語として文を構成することである。受身文の述語は、動詞の語幹「-(r)are-ru」という接辞を付加して作られ、事態の描き出し方としては有標であることを表し

ている。

他方、中国語の受身はマーカのない受身文とマーカのある受身文2タイプに大きく分けられる。まずマーカのない「意味上の受身」については、劉ほか(2001)によると、動作の受け手が動作の影響を受けたことを表すのに、中国語で多く意味上の受動文が用いられる。受け手を主語の位置に置き、述語をその後に置く。動作の仕手が文中に現れる場合は受け手の後ろに置かれる。例えば、房间打扫干净了。(部屋はきれいに掃除された。)一方、マーカのある受身文はさらに2タイプに分けられる。一つは「受」類の動詞を用いた受身。例：太郎受到了老师的高度评价。(太郎は先生から高く評価された。)(中島,2007) もう一つは前置詞「被、叫、让」が伴われる文である。このような文を木村(1992)は以下のように定義している。つまりそれは主語の位置に、動作の影響を被る対象を表す構成素が立ち、動作の担い手を表す構成素が前置詞「被、叫、让」のいずれかに伴われて非主語の位置に立つタイプの構文である。例：椅子让小王拉倒了。(椅子が王君に引き倒された。)

2.2 日本語と中国語の受身の分類に関する先行研究

本稿が採用したのは志波(2015)による分類方法である。志波(2015)は奥田靖雄が提唱する「体系、構造、要素」という構文理論から影響を受けている。つまり、文は1つの統合的な体系である、様々な要素で構成され、その要素の間には一定の結びつきの組織ないし秩序＝構造(パターン)がある。一方で、文がくり返し発話されることによって抽象化・一般化され、ある1つの「型＝パターン」として、その構造は語彙項目と並んでレキシコンに登録される(志波,2015:9)。以上の構文理論に基づいて、志波(2015)は、動詞の結合価と語彙的意味を中心に、受身文を類型化した。

具体的な分類方法としては、志波(2015)は小説の会話文、小説の地の文、新聞の報道文、評論文という4つのテキストから、日本語受身文を抽出し、まず主語と動作主の有情・非情の別に基づいて大きく4つに受身構文を分類した上で、その4つの分類を軸に、動詞のカテゴリカルな意味とその構造的特徴によって、その4種類をまた17タイプに下位分類した。その17タイプの分類をそれぞれ意味と構造的特徴に基づいてさらに細かく分類した。全部で73タイプになっている。詳細は志波(2015)を参照。また略号については、A=有情(animate)、I=非情(inanimate)。以下は非情受身文を中心とした分類の詳細。また、全てのサブタイプの分類については、志波(2015)を参照。

a: 非情一項受身構文

I 変化型 例：机が折り畳まれた。(I 状態変化型)

I 無変化型 例：ドアが叩かれた。

I 認識型 例：実験を通して仮説が検証された。(I 思考型)

I 態度型 例：学校に対し、父兄から対策が求められた。(I 要求型)

I 存在型 例：窓際に花が活けられていた。(I 存在様態受身型)

I 習慣的社会活動型 例：人身売買は禁止されている (I 社会的約束型)

I 超時的事態型 例：洗練された人（I 特徴規定型）

b: 非情非情受身構文

II 現象受身型 例：水面が陽に照らされてきらきらしている。

II 関係型 例：日本は海に囲まれた島国だ（II 位置関係型）

以上のように、本稿においては、志波（2015）に基づいて日本語の非情受身文を分類する。中国語受身文の分類方法としては、日本語と対照する便宜上、志波（2015）の分類方法を参照した。詳しくは次章に説明する。

III 研究の枠組み

3.1 研究目的と研究方法

前述のように、本稿においては、日本語と中国語小説における非情受身文を中心に、日本語と中国語受身文の対応関係を明らかにすることを目的とする。

研究方法としては、まず4冊の小説から非情受身文を抽出し、分類する（作品の詳細については3.2節を参照）。日本語受身文の分類方法に関しては、前章で説明したが、中国語受身文の分類方法は、日本語と対照する便宜上、志波（2015）の分類方法を参照した。

以下では、マーカーのない「意味上の受身文」、「受」類の動詞を用いたマーカーのある受身文、「被、叫、让」を伴うマーカーのある受身文という3種類の受身文をそれぞれ分析する。まず、「被、叫、让」というマーカーのある受身文をどのように志波（2015）の方法で分析するのかを説明する。

志波（2015）においては、2.2章で説明したようにまず主語と行為者の有情・非情を軸に、受身文をAA受身構文、AI受身構文、I非情一項受身構文、II受身構文に分けている。その上、要素となる名詞や動詞のカテゴリカルな意味とそれらの間の関係的な意味によって、4種類の受身文をさらにサブタイプに分けている。例えば、「指令が送られる」この例文においては、主語が非情物で、動詞の「送る」に位置の変化という意味が含まれている。要素となる名詞と動詞の関係としては、志波によれば主語に立つ非情物が外的行為者からの働きかけを受けて、具体的なモノもしくは抽象的なコトに、今まで存在していた場所から別の場所への位置の変化が起きるという事態を表している。この例文から、以下のような図式を抽出することができる。このタイプは「I位置変化型」と名付けられる

対象 IN一ガ SUB	着点・起点 場所 N=ニ/カラ COM	外的要因による位置変化 位置変化 Vーラレル
----------------	------------------------	---------------------------

(志波, 2015:178, 179)

本論文においては、上記の志波（2015）の分析方法を参照し、「被、叫、让」が伴われるマーカーのある受身文を、例えば、以下の例文のように分析する。（日本語訳文については日本語小説原文の対応箇所を挙げ、訳文については頁数も付記する。）

中国語：他那顆两天来绷得紧紧的心脏像被放到了柔软的天鹅绒上。（『三体』, 54）

日本語訳文：この二日間のストレスで破裂しそうになっていた心臓が、柔らかなピロードの上にそっと置かれたようだった。（『三体』, 132）

上記の例文においては、主語の「心脏」（心臓）は非情物で、動詞の「放」（置く）に位置変化を含意している。さらに、要素となる名詞と動詞の関係としては、主語である「心脏」は誰かの「放」という働きかけを受けて、元の存在していた場所から、「柔软的天鹅绒上」という別の場所へ位置変化が起きたという事態を表している。そのゆえ、上記の例文を「I 位置変化型」というタイプに分類する。

次に、マーカーのない中国語の「意味上の受身文」についても、同様の分析方法で分類する。例えば、以下の例文を取り上げ、分類の仕方を示す。

中国語：执政官会议在巨摆纪念碑下举行。（『三体』, 271）

日本語訳文：執政官會議は巨大振り子モニュメントのもとで行われた。

（『三体』, 395）

この例文においては、主語に立つのは「会议」（会議）である。動詞の「举行」は行われるという意味になる。主語の「会议」は動詞の「举行」（行われる）の意味上の目的語になるため、マーカーのない「意味上の受身文」と判断できる。さらに、主語の「会议」と動詞の「举行」の意味上の関係としては、背景化された何らかの動作主によって、主語の「会议」は「举行」（行われる）ことを表している。この事態は志波（2015）の I 実行型に当てはまる。

また、「受」類の動詞を用いたマーカーのある受身文の例を取り上げる。

中国語：但进入大气层，就立刻完全受气流控制，永远也不会落下。

（『三体』, 277）

日本語訳文：しかし、大気圏内に入ると、気流に支配されて、地面にはいつまでも落ちてこない。（『三体』, 403）

上記の例のような「受」類の動詞を用いたマーカーのある受身文においては、「受」類の動詞は本動詞となるため、要素となる名詞や動詞のカテゴリカルな意味とそれらの間の関係的な意味によってタイプを分けることが難しくなる。しかし、「受」類動詞の後ろの名詞は「控制」のように動詞としての使い方も持っている場合が多い。したがって、「受」類動詞を用いた受身文については、分析方法として、名詞や動詞のカテゴリカルな意味とそれらの間の関係的な意味を見るのではなく、主語となる名詞や行為者としての名詞、「受」類動詞の後につく名詞のカテゴリカルな意味とそれらの間の関係的な意味を見ることにする。上記の例においては、主語の「丝」（糸）が省略されたが、主語と二格の名詞は両方非情物で、

主語に立つ非情物が持つ性質に対して、二格の「気流」が影響力を持っていることを表している。この事態は志波（2015）のII 影響関係型に当てはまる。

本稿では、以上のように日本語と中国語の受身文を分類し、その上、それぞれのタイプの日本語と中国語の受身文について対応関係を考察する。

3.2 分析対象

分析対象としては、日本語オリジナル小説一冊とその訳本、中国語オリジナル小説一冊とその訳本、合計4冊の作品を取り扱う。作品の詳細は以下の二つの表の通りである。

a. オリジナル小説

作品名	出版年	著者名	著者生年	頁数	語りの人称
ツナグ	2010	辻村深月	1980	316	第3人称
三体	2008	刘慈欣	1963	297	第3人称

b. 訳本

作品名	出版年	訳者名	訳者生年	頁数	語りの人称
使者	2013	顔尚吟		252	第3人称
三体	2019	大森望・光吉さくら・ワンチャイ	1961	433	第3人称

IV 日中両言語の非情受身文の対応関係について

4.1 日本語オリジナル小説が中国語に訳される場合

4.1.1 日本語非情受身文の中国語訳文に関する量的分析

本節では、『ツナグ』という日本語オリジナル小説から242例の非情受身文を収集し、それらの受身文はどのように中国語に訳すのかを調査した。また、中国語の訳本において、日本語オリジナル小説では能動文が使われているにもかかわらず、中国語の受身文に訳された例も見つけた。調査の結果は以下の表1のようになる。

表1 日本語オリジナル小説における非情受身文の出現延べ数と中国語受身文への訳出状況

	中国語の受身文に訳された例		中国語の受身文に訳されていない例
日本語オリジナル小説 における非情受身文	「被」を用いた受身文	34	180
	意味上の受身文	27	
	「受」を用いた受身文	1	
日本語オリジナル小説 における能動文	「被」を用いた受身文	18	/
	意味上の受身文	1	

表1から見ると、日本語の非情受身文は中国語受身文への訳出割合は25.6%となっており、それほど高くないように見られる。中国語受身文に訳される例のうち、5割は「被」な

どマーカを用いた受身文に訳されている。「受」などの本動詞を用いた受身文に訳される例は極めて少ないように見られる。また、日本語オリジナル小説において、能動文が使われているにも関わらず、中国語訳文では「被」などマーカを用いた受身文に訳された例も18例があった。

続いて、日本語受身文を志波（2015）に基づいて分類し、中国語の受身文とどのように対応しているかについて分析する。分析結果は以下表2で示す。（「受」を用いた受身文に訳された例は1例で、I状態変化型の例である。1例のみのため、以下の表に入れていない）。

表2：日本語オリジナル小説における非情受身文の分布と中国語との対応関係

受身タイプ	日本語受身文の出現延べ数	中国語「被」を用いた受身文になっている出現延べ数	中国語意味上の受身文になっている出現延べ数	中国語受身文になる割合
II 内在的關係型	4	0	0	0
II 位置關係型	3	3	0	100%
II 現象受身型	4	2	0	50%
II 影響關係型	1	0	0	0
I 表示型	2	1	0	50%
I 抽象的存在型	2	0	0	0
I 抽象的所有型	1	0	0	0
I 存在様態受身型	22	0	1	4.5%
I 発話型	10	0	0	0
I 結果型	26	1	2	11.5%
I 実行型	8	1	4	62.5%
I 発見型	2	2	0	100%
I 判断型	3	1	0	33.3%
I 社会的呼称型	1	1	0	100%
I 社会的評価型	1	0	0	0
I 社会的言語活動型	5	1	1	40%
I 社会的約束型	4	1	0	25%
I 思考型	8	1	0	12.5%
I 所有変化型	12	2	2	33.3%
I 特徴規定型	6	2	0	33.3%
I 位置変化型	38	4	8	31.5%
I 無変化型	5	0	0	0
I 限定型	1	0	0	0
I 要求型	5	0	0	0
I 意義づけ型	13	2	2	30.8%
I 表現型	1	0	0	0

I 知覚型	14	1	0	13.3%
I 状態変化型	39	8	7	38.4%

表 2 から見ると、日本語においては、出現延べ数の多い非情受身文のタイプは I 状態変化型、I 位置変化型、I 結果型、I 存在様態受身型となっている。この 4 つのタイプの中国語受身文への訳出割合はすべて 50% を下回っているが、I 状態変化型の中国語受身文への訳出割合は、上位の 5 位に入っており、比較的多いと言えるだろう（出現延べ数が 3 以下のタイプを除いた）。一方、I 結果型と I 存在様態受身型は中国語受身文に訳しにくいと見られる。さらに、I 知覚型、I 意義づけ型、I 所有変化型、I 発話型の出現延べ数も比較的多く見られるが、中国語受身文への訳出割合は低くなっており、特に I 発話型が中国語受身文に極めて訳しにくいと見られる。また、出現延べ数はそれほど多くないが、中国語受身文と対応できないように見られるタイプは II 内在的關係型、I 無変化型、I 要求型となっている。他方、II 位置変化型と I 実行型は出現延べ数がそれほど多くないが、中国語受身文と対応しやすくように見える。

4.1.2 日本語非情受身文の中国語訳文に関する質的分析

前節においては、日本語オリジナル小説における受身文の使用実態とそれらの中国語受身文への訳出割合について調べた。結果としては、I 状態変化型、I 位置変化型、I 結果型、I 存在様態変化型の出現延べ数が最も多いが、I 状態変化型以外に中国語受身文に訳しにくいように見られる。以下では日本語受身文の I 状態変化型、I 位置変化型、I 結果型と I 存在様態変化型は中国語とどのように対応するかについて考察する。

(1) I 状態変化型

I 状態変化型の日本語受身文は今回の調査において出現延べ数が最も多いタイプとなっている。中国語受身文への訳出割合に関しては、出現延べ数の上位 5 位のタイプの中、訳出割合が最も高いタイプにもなっている。以下では、I 状態変化型の例文を取り上げて分析する。

例 1：御園の身体がなくなってしまうなんて、燃やされてしまうなんて、嫌で、信じられなくて、ずっとこのままにしておいて欲しかった。（『ツナグ』, 152）

中国語訳文：我无法接受御园的身体已经被烧掉、消失不见这样的事实，我要她一直保持原样。（『使者』, 119）

例 2：黒く塗られたアスファルトの道が鏡のように光って、道行く人の姿と色とりどりの傘の色を反射している。（『ツナグ』, 206）

中国語訳文：被水浸得黝黑的泊油路面像镜子一样发着光，倒映着行人的身影和五花八门的雨伞。（『使者』, 164）

例 3：三つ折りにされた厚紙は、広げると、四角形のカップだった。（『ツナグ』, 219）

中国語訳文：摊开被折成三折的纸板，原来是一个四方形的纸杯。（『使者』, 175）

例 4：水色のオオイヌノフグリは、昨夜の雨に潰されることもなく、小さな花を空に向けている。（『ツナグ』, 305）

中国語訳文：蓝色的波斯婆婆纳并没有被昨夜的大雨打坏，小小的花朵仰天开放着。

(『使者』, 243)

例 5: きれいにセットされた髪と、化粧が施された大人っぽい顔が、服装から浮いている。(『ツナグ』, 295)

中国語訳文：梳得油光光的发型和成熟的妆容跟身上的衣服很不搭调。(『使者』, 235)

例 6: 少年のくっきりとした瞳がさらに大きく見開かれた。(『ツナグ』, 208)

中国語訳文：少年那黑白分明的眼睛睁得越发大了。(『使者』, 166)

例 7: 肩から嫌な力が解放されるように、全身から大きな息が出た。(『ツナグ』, 134)

中国語訳文：终于一下子摆脱了肩头沉重的束缚感，我深深地叹了口气。(『使者』, 105)

例 8: 両手に拳が握られる。(『ツナグ』, 178)

中国語訳文：女孩双手握拳。(『使者』, 142)

例 9: 当日、祖母が中に入るまで玄関も窓も施錠されていたこと、現場に荒らされた様子がなく、現金や貴重品も手付かずだったことから、外部から何者かが侵入した可能性はほぼないと判断された。(『ツナグ』, 244)

中国語訳文：当天，直到祖母进屋前，所有的门窗都是上锁的，现场也没有凌乱的迹象，现金和贵重物品也没有损失，所以基本可以排除歹徒入室作案的可能。

(『使者』, 194)

以上の例については、例 1～例 4 は中国語の「被」などマーカーを用いた受身文に訳された。例 5 と例 6 は中国語の意味上の受身文に訳された。例 5 の受身形式は連体修飾になっているが、中国語の受身文に訳されているかどうかを判断する場合、本稿では、中国語の訳文を単文形式に戻して判断することにした。例 5 の中国語訳文を単文形式に戻すと、「发型梳得油光光」となる。主語は「发型」となり、述語の「梳」はその後に置いているため、中国語の意味上の受身文であると考えられる。また例 7 と例 8 は中国語の能動文に訳された。例 9 のように、日本語の受身形式が連体修飾になる場合、中国語に訳すとき、形容詞や名詞などを用いた例もいくつかあった。

以上の例を見てみると、日本語の I 状態変化型の受身文は中国語の受身文に対応できるかどうかは、動詞文の他動性と関わっていると考えられる。他動性のプロトタイプ・モデルについては、ホッパーとトンプソンモデルとダウティのプロトロールモデルがよく挙げられている。中村 (2004) はこの二つのモデルを統合し、動詞文の意味的他動性の高低と関係している意味的性質群を以下のように示している。

a.キネシス b.アスペクト c.極性 d.モード e.O の状態変化 f.O=漸増主題 g.O の被影響度 h.A の意志 i.A の意識 j.A の自律的活動

(A は動作主項、O は被動作主項を指す)

例 1～例 8 の例においては、まず I 状態変化型の受身文は(e)の性質に関しては、全ての例は影響あると見られる。さらに、中国語受身文とどう対応するかを見てみると、(a) (f) (g) の性質と関係していると見られる。中国語の「被」などマーカーを用いた受身文と対応している例 1～例 4 においては、述語の「燃やす」「塗る」「三つ折りにする」「潰す」は行為として認められ、目的語に対する影響度については全面的な影響を与えていると思われる。さ

らに、例 1 と例 4 は、目的語が完成・消滅過程と出来事と進行する過程が相同的に進行するように見られ、漸増主題があると考えられる。このような場合、I 状態変化型の日本語受身文は中国語の「被」などマーカーを用いた受身文と対応しやすいと考えられる。中国語の意味上の受身文に訳された例 5 において、「セットされる髪型」は、簡単に元の状態に戻ることができるため、目的語に対する影響度は例 1~4 のほど高くなくないように考えられる。例 7 と例 8 においては、目的語に対する影響度はさらに低くなっている。例 6 は中国語の意味上の受身文に訳されたが、翻訳の仕方によって、能動文に訳された例もあった。このような動作の受け手の被影響度の低い I 状態変化型の日本語受身文は中国語の能動文と対応しやすいと見られる。

(2) I 位置変化型

I 位置変化型の日本語受身文は今回の調査では、出現延べ数の上位 2 位のタイプとなっており、第 1 位の I 状態変化型の受身文の出現延べ数とそれほど変わらない。しかし、中国語の受身文への訳出割合は I 状態変化型と比べれば、だいぶ低いように見える。また、前節の量的分析で見られるように、中国語の意味上の受身文と対応する I 位置変化型受身文の出現延べ数は中国語の「被」などのマーカーを用いた受身文と対応するものの約 2 倍となっている。中国語の「被」などのマーカーを用いた受身文と比べ、I 位置変化型の日本語受身文は中国語の意味上の受身文とより対応しやすいように見られる。以下では、I 位置変化型の例文を取り上げて分析する。

例 10: 売り飛ばされるかもしれない。(『ツナグ』, 41)

中国語訳文: 也许会被卖到远方。(『使者』, 29)

例 11: 自分がその煙に呑まれたのか、それとも煙は私の内側から吹き出ているのか、境界が曖昧になる。(『ツナグ』, 151)

中国語訳文: 到底是我被浓烟吞没了, 还是浓烟正从我的身体里吹刮出来, 期间的分界暧昧不明。(『使者』, 118)

例 12: カードキーが挟まれているのだろう。(『ツナグ』, 90)

中国語訳文: 房卡应该就夹在里面。(『使者』, 69)

例 13: 救急車は動き出さず、会社の前に横づけされたままだった。(『ツナグ』, 168)

中国語訳文: 救护车就横停在公司前, 并没有启动。(『使者』, 134)

例 14: 現場には、父の鞆が開きっぱなしの状態で置かれていた。(『ツナグ』, 306)

中国語訳文: 在案发现场, 爸爸的包打开着放在地上。(『使者』, 244)

例 15: 形見分けで、今は祥子がもらい、着られることもなくタンスにしまわれているはずだ。(『ツナグ』, 93)

中国語訳文: 分遗物的时候, 这件和服分给了祥子。她也穿不上, 就一直搁在衣橱里了。

(『使者』, 71)

例 16: 伏せた睫をあげると、そこについた涙が弾かれて飛んだ。(『ツナグ』, 213)

中国語訳文: 小闪抬起眼, 沾在睫毛上的泪珠飞弹开来。(『使者』, 169)

例 17: 微笑む彼女の顔は明るく、額に貼られたガーゼさえ違和感なく調和され、たたずむ

キラリは楽しそうだった。(『ツナグ』, 185)

中国語訳文：她微笑的脸庞甚是灿烂，连额头上的绷带都不让人觉得别扭。

(『使者』, 146)

上記の例においては、例 10 と例 11 は中国語の「被」などのマーカーを用いた受身文と対応しており、例 12～14 は中国語の意味上の受身文と対応している。例 15 と例 16 は中国語の能動文に訳された。また、例 17 のように受身形式が連体修飾になり、モノが位置変化の後、他の対象との位置関係を示している場合、中国語に訳すと、述語が省略される例もいくつか見られた。

以上の例を見てみると、中国語の「被」などマーカーを用いた受身文と対応している文は、特徴として、「被害」のニュアンスが強く感じられる。また、例 12～15 を見れば、I 位置変化型の日本語受身文は、中国語の意味上の受身文と対応するか能動文と対応するかに関して、視点と関係しているように見られる。初めて登場する重要なモノは際立ちやすく、主語に置く場合が多い。その場合は、中国語においては、意味上の受身文となっている。そうでない場合、中国語の能動文に訳されやすいように見られる。さらに、例 16 のように、他動性が低いため、中国語に訳す場合、自動詞文となっている例もあった。

(3) I 結果型

I 結果型とは、これまで現実の世界には存在していなかったモノやコトが、動作実行の結果として出現することを表している(志波, 2015:189)。I 結果型の図式は、以下のようになる。

出現場所 (N—ニ MOD)	結果対象 IN-ガ SUB	外的要因による結果的出現 作成 V—ラレル
-------------------	------------------	--------------------------

(志波, 2015:189)

前節で見られるように、I 結果型受身文の出現延べ数は第 3 位となっているが、中国語受身文への訳出割合は低いようである。以下では、I 結果型の例文を取り上げて分析する。

例 18: これは友達付き合いではなく、あくまで彼は渋谷歩美じゃなくて使者なんだと、線を引かれていますように感じる。(『ツナグ』, 148)

中国語訳文：这并不是朋友间的往来方式，让我感觉自己被清楚地划清了界限——对方只是使者，并不是涩谷步美。(『使者』, 116)

例 19: その穏やかさに、答えが書かれていますように思えた。(『ツナグ』, 98)

中国語訳文：答案显然已经写在老妈慈祥的脸上了。(『使者』, 76)

例 20: 見えない力に導かれたように受け取ると、中に、電話番号が書かれていた。

(『ツナグ』, 195)

中国語訳文：似乎受到一股无形的力量的指引，我伸手接过纸条，打开一看，里面写着一个电话号码。(『使者』, 155)

例 21: しかめた顔に施された濃い化粧。(『ツナグ』, 177)

中国語訳文: 扭曲的脸上施着浓妆。(『使者』, 141)

今回の調査で収集した I 結果型の日本語受身文は、例 18 のような中国語の「被」などのマーカーを用いた受身文に訳された文や例 19 のような中国語の意味上の受身文に訳された例もあったが、出現延べ数がとても少ないと見られる。ほとんどの I 結果型の受身文は能動文と対応しているが、そのうち、一般的な「主語—述語—目的語」というような能動文となっているのは 6 例、翻訳の仕方によって異なった表現となっているのは 7 例である。残りの 10 例は「存現文」と対応している。例えば、上記の例 20 と例 21 のようである。「存現文」とは、意味的には、ある場合に何物かが存在している、或いはある場所乃至はある時間に何物かが出現または消失したことを表す文であり、形式的には、文頭に場所或いは時間を表す語句が立ち、存在する、または出現或いは消失した人・事物を表す名詞が常に述語動詞の後ろに置かれる文(劉ほか, 2001: 613)。「存現文」の形式については以下のようにまとめられる。つまり、「場所語句/時間語句+動詞+名詞」となる。意味的には、日本語受身文の I 結果型と中国語の「存現文」は両方ともモノやコトの出現あるいは存在を表している。形式的には、日本語受身文の I 結果型の「場所ニモノガ作成 V られる」というパターンは中国語の「存現文」の「場所語句/時間語句+動詞+名詞」構造と似ている。これらの共通点は、日本語の I 結果型が中国語の「存現文」と対応しやすい理由の一つであると思われる。言い換えれば、「存現文」の述語は作成動詞となる場合、日本語受身文の I 結果型に訳されやすいと考えられる。

(4) I 存在様態受身型

I 存在様態受身型は、何らかの外的行為者の働きかけの残存として、ある場所にあるモノがあるあり方で存在していることを表す。述語はラレテイル形ないしラレテアル形で、主に位置変化動詞、作成動詞、表現・表示動詞が要素となる(志波, 2015: 246)。最も用例の多い典型的なものは設置や付着などを表す位置変化動詞による眼前描写の例として挙げられている。

このタイプの日本語受身文の出現延べ数は今回の調査で収集した例文のうち、上位 4 位となっている。しかし、収集した 22 例の I 存在様態受身型の日本語受身文は中国語の受身文に訳された例は 1 のみで、中国語受身文への訳出割合は 4.5%となっている。極めて中国語受身文と対応しにくいタイプと見られる。一方、I 存在様態受身文型の日本語受身文は中国語の一般的な「主語—述語—目的語」というような能動文と対応できる例は、今回の調査においては、2 例のみ収集した。つまり、日本語受身文の I 存在様態型は中国語の一般的な能動文にも対応しにくい。以下では I 存在様態受身型の例文を取り上げ、このタイプの日本語受身文はどのような中国語文と対応するかを考察する。

例 22: 顔を向けると、中に無料の給茶機が設置されているのが見えた。(『ツナグ』, 10)

中国語訳文: 抬头一看, 之间食堂里放着一台免费茶水机。(『使者』, 5)

例 23: 廊下に敷きつめられた絨毯に、歩くたび私の靴の低いヒールが埋まってしまいそう

な錯覚を覚える。(『ツナグ』,41)

中国語訳文：走廊上鋪着厚厚的地毯，每走一步，都会误以为我那低矮的鞋跟就要陷进去了。
(『使者』,30)

例 24：俺はベッドの向かいに置かれた机の椅子を引き出して座る。(『ツナグ』,94)

中国語訳文：床的对面摆着成套的桌椅，我拉出椅子坐下。(『使者』,72)

例 25：芝生の前に立てられた低い柵に足を載せ、立ったままている。(『ツナグ』,10)

中国語訳文：他并没有在我旁边坐下，而是站在草坪前，一只脚踏在低矮的栅栏上。
(『使者』,6)

例 26：ベッドの前に置かれた丸椅子に座った定之が、入ってきた歩みを見るなり「おう」と手を上げた。(『ツナグ』,225)

中国語訳文：舅公定之正坐在病床前的圆凳上，一见步美进来，立马招招手，“喂！”
(『使者』,179)

例 27：全面が窓ガラスに覆われた壁の、一番端にドアがあった。(『ツナグ』,9)

中国語訳文：玻璃幕墙的尽头有一道门，里面似乎有一个中庭。(『使者』,5)

今回の調査で収集した I 存在様態受身型の日本語受身文の半数は例 22、例 23、例 24 のように中国語の「存現文」と対応している。前述した通り、中国語の「存現文」はある場合に何物かが存在しているのを表している。この意味特徴は日本語受身文の I 存在様態受身文型と共通している。また、以上の例を見てみると、I 存在様態受身型は連体修飾になる場合が多く見られる。それを中国語に訳す場合、例 23 と例 24 のように連体修飾節を一つの独立な文にし、「存現文」に訳す例は 6 例あった。したがって、日本語受身文の I 存在様態受身型は中国語の「存現文」と対応する傾向が強いと思われる。さらに、I 存在様態受身型は連体修飾になる場合、中国語に訳す際、例 25 と例 26 のように位置変化動詞が省略される例も 5 例あった。また、例 27 のように、I 存在様態受身型は連体修飾になる場合、中国語に訳す際、固定名詞になる例も見られた。

4.1.3 日本語では能動文で、中国語訳では受身文の場合について

今回の調査において、日本語オリジナル小説では能動文であるが、中国語の受身文に訳された例が 19 例あった。そのうち、中国語の意味上の受身文となっているのは 1 例のみで、志波 (2015) の分類方法のもとでは、I 思考型となっている。他の 18 例はすべて「被」などのマーカーを用いた例であり、志波 (2015) の分類方法に基づいてそれらの中国語受身文を分析し、結果は以下の表 3 で示す。

表 3：日本語オリジナル小説において能動文であるにも関わらず、中国語で受身文になる場合

受身タイプ	中国語受身文出現延べ数
I 状態変化型	10
I 位置変化型	4
II 現象受身型	2

I 実行型	1
II 位置関係型	1

表 3 からみると、日本語オリジナル小説において能動文であるにも関わらず、中国語の受身文に訳される例は I 状態変化型が圧倒的に多いように見られる。以下では、中国語受身文の I 状態変化型と対応する日本語小説の原文を取り上げて考察する。

例 28: 唾液と吐いた息で萎れたようにぺしゃんこになったビニール袋を「あー、もう使えないわ、これ」と拾い上げる。(『ツナグ』, 33)

中国語訳文: 塑料袋已经被口水和呼出来的水汽弄得瘪塌塌的, 她捡起袋子, 说了句“唉, 这个已经没法用啦” (『使者』, 23)

筆者による訳: 她捡起因为口水和呼出来的水汽变得瘪塌塌的塑料袋, 说了句“唉, 这个已经没法用啦”

例 29: 手にしたカードキーの厚紙が、汗で湿っていた。(『ツナグ』, 92)

中国語訳文: 手里捏着的房卡护套已经被汗水浸湿。(『使者』, 71)

筆者による訳: ?手里拿着的房卡的厚纸板因为汗水而变得湿漉漉的。

例 30: 泣き止んだ顔は、瘦せてくぼんだ頬が涙で白くなっていたが、そこには心地よい熱の跡が感じられた。(『ツナグ』, 311)

中国語訳文: 祖母已经停止了哭泣, 瘦削凹陷的脸颊被泪水冲刷得越发苍白, 然而, 步美可以从感受到一丝舒畅的温暖。(『ツナグ』, 248)

筆者による訳: *祖母已经停止了哭泣, 瘦削凹陷的脸颊因为泪水而变得越发苍白, 然而, 步美可以从感受到一丝舒畅的温暖。

以上の例を見てみると、日本語文には以下のような共通点が見られる。

- a. 自動詞文である。
- b. 述部には状態変化の結果まで含意している。
- c. 状態変化の原因となるモノがデ格で表されている。

これらの例は中国語版の小説では、受身文に訳されていて、状態変化の原因となるモノは動作の仕手となっている。以上の例について、筆者は状態変化の原因となるモノを日本語文と同じく状態語として訳してみた。例 28 の筆者による訳も文として成立しているが、例 29 の筆者による訳に違和感が感じられる。さらに、例 30 の筆者による訳は非文と見られる。例 28 の筆者による訳は成立しているのは、唾液と吐いた息に含まれている水蒸気でビニール袋が萎れる、という因果関係は想像がしやすいからであると思われる。例 29 については、汗でシャツが湿っていることなら想像が付きやすいが、汗で厚紙が湿っているのなら相当の汗をかいているという場合しか想像が付かない。中国語に訳す際、日本語文と同じく状態変化を表す原因となるモノを状態語として訳して見れば、違和感が感じられる。例 30 については、顔が涙で白くなっているのは涙という液体の反射で顔が白く見えるのか、涙に洗い流されて白く見えるのか、涙が出ることと顔が白くなることとの間の因果関係がわかりにくいと思われる。この場合、中国語にも日本語文と同じく状態変化の原因となるモノを状態語として訳して見れば、非文となった。そのため、中国語版小説においては、「洗い流す」と

いう動詞を補充し、涙に洗い流されて白く見えると涙が出ることや顔が白く見えることの因果関係をはっきりとさせた。日本語原文ではデ格の状態変化の原因となるモノは動作の仕手になる。つまり、例 29 と例 30 のような、デ格の名詞句は状態変化との因果関係がそれほど強くない場合、中国語においては、状態の変化は述語ではなく、結果補語あるいは状態補語として表し、因果関係をはっきり示すことができるような述語を補充する必要がある。そして、状態変化の原因となるモノは述語で表している動作の仕手になる。これは、上述のような状態変化を表す日本語自動詞文が中国語の受身文と対応しやすい理由の一つであると考えられる。

4.2 中国語オリジナル小説が日本語に訳される場合

4.2.1 中国語非情受身文の日本語訳文に関する量的分析

本節では、『三体』という中国語オリジナル小説から 210 例の非情受身文を収集し、それらの受身文はどのように日本語に訳されているのかを調査した。また、日本語の訳本において、中国語オリジナル小説では能動文が使われているにもかかわらず、日本語の受身文に訳された例は 282 例となっており、中国語受身文の出現延べ数よりも多いように見られる。調査結果の詳細は以下の表 4 の通りである。

表 4 中国語オリジナル小説における非情受身文の出現延べ数と日本語受身文への訳出状況

	日本語の受身文に訳された例		日本語の受身文に訳されていない例	
	中国語オリジナル小説における非情受身文	「被」を用いた受身文	76	「被」を用いた受身文
	意味上の受身文	66	意味上の受身文	11
	「受」を用いた受身文	3	「受」を用いた受身文	0
中国語オリジナル小説における能動文	282		/	

表 4 から見ると、中国語の非情受身文は日本語受身文への訳出割合は 69.0%となっており、日本語受身文の中国語受身文への訳出割合よりかなり高いように見られる。さらに、中国語受身文を「被」などのマーカーを用いた受身文、意味上の受身文、「受」を用いた受身文という 3つのタイプに分けると、それぞれのタイプの日本語受身文への訳出割合は 58.5%、85.7%、100%となっている。「受」を用いた受身文は今回の調査で収集した例は 3例のみで、出現延べ数が低いため、このタイプについての考察は今後の課題としたい。意味上の受身文は日本語受身文と比較的対応しやすいと思われる。「被」などのマーカーを用いた受身文に関しては、出現延べ数は 3つのタイプのうち最も多いものであるが、約半数は日本語受身文に訳されている。

続いて、中国語受身文を志波（2015）に基づいて分類し、日本語受身文とどのように

対応しているかについて分析する。まず、「被」などのマーカ―を用いた受身文の分析結果は以下表 5 で示す。

表 5：中国語オリジナル小説における「被」を用いた非情受身文の分布と日本語との対応関係

受身タイプ	中国語「被」を用いた受身文の出現延べ数	日本語受身文になっている出現延べ数	日本語受身文になる割合
II 位置変化型	13	7	53.8%
II 現象受身型	2	0	0
I 表示型	1	0	0
I 抽象的所有型	1	1	100%
I 存在様態受身型	1	1	100%
I 社会的関心型	1	1	100%
I 社会的呼称型	1	1	100%
I 社会的評価型	1	1	100%
I 社会的思考型	1	1	100%
I 社会的言語活動型	1	1	100%
I 所有変化型	4	3	75%
I 結果型	2	0	0
I 位置変化型	19	14	73.7%
I 無変化型	2	1	50%
I 意義づけ型	2	1	50%
I 知覚型	6	2	33.3%
I 状態変化型	72	41	56.9%

表 5 から見ると、中国語の「被」などマーカ―を用いた非情受身文について、I 状態変化型、I 位置変化型と II 位置関係型という 3 つのタイプが多いように見られる。特に、I 状態変化型受身文の出現延べ数は圧倒的に多い。I 位置変化型の「被」を用いた中国語受身文の日本語受身文への訳出割合は 73.7% に達しており、比較的高いように見られるが、I 状態変化型の「被」を用いた中国語受身文は約半数が日本語受身文と対応している。

次に、中国語の意味上の受身文を志波（2015）に基づいて分類し、日本語受身文への訳出割合について考察する。結果は以下表 6 で示す。

表 6：中国語オリジナル小説における意味上の受身文の分布と日本語との対応関係

受身タイプ	中国語意味上の受身文の出現延べ数	日本語受身文になっている出現延べ数	日本語受身文になる割合
II 構成関係型	2	2	100%
II 位置変化型	4	4	100%
I 表示型	3	3	100%
I 抽象的変化型	1	1	100%

I 存在様態受身型	3	3	100%
I 結果型	7	6	85.7%
I 論理的操作型	2	2	100%
I 判断型	2	1	50%
I 実行型	14	11	78.5%
I 位置変化型	12	10	83.3%
I 無変化型	3	2	66.7%
I 限定型	2	2	100%
I 知覚型	2	2	100%
I 状態変化型	20	17	85%

表 6 から見ると、中国語意味上の受身文のタイプは I 状態変化型、I 実行型、I 位置変化型に集中している。日本語受身文への訳出割合はそれぞれ 85%、78.5%、83.3%に上がっており、比較的高いように見られる。

4.2.2 中国語非情受身文の日本語訳文に関する質的分析

前節においては、中国語オリジナル小説における受身文の使用実態とそれらの日本語受身文への対応について調べた。結果としては、「被」などのマーカーを用いた受身文のタイプは I 状態変化型、I 位置変化型と II 位置関係型に集中している。特に、I 状態変化型は圧倒的に多い。また、意味上の受身文に関しては、I 状態変化型、I 実行型、I 位置変化型の出現延べ数が最も多い。以下では中国語受身文の I 状態変化型、I 位置変化型と I 実行型の日本語とどのように対応するかについて考察する。

(1) I 状態変化型

前節で見たように、中国語受身文の I 状態変化型の出現延べ数は圧倒的に多いと言える。そのうち、「被」などのマーカーを用いた受身文の日本語受身文への訳出割合は 56.9%で、意味上の受身文の日本語受身文への訳出割合は 85%となっている。以下では、まず「被」を用いた受身文の I 状態変化型の例文を取り上げ、このタイプの中国語受身文はどのように日本語文と対応するかを考察する。

例 31: 当火烧起来时, 基地里那些鸟凄惨的叫声不绝于耳, 它们的羽毛都被烧焦了。

(『三体』, 200)

日本語訳文: 燃えさかる炎と、羽根を焦がされて悲しげに鳴く鳥の声はやむことなかった。(『三体』, 297)

例 32: 他仰望高高的塔顶, 看到原来那直指苍穹的塔顶已被削平了, 成为一个平台。

(『三体』, 101)

日本語訳文: 見上げると、まっすぐ天を指すようだった頂上は、切削されて、平坦な台になっている。(『三体』, 156)

例 33: 大地已经像一块炉中的铁板一样被烧得通红。(『三体』, 136)

日本語訳文: 大地はすでに、鍛冶屋のかまどに挿し込まれた鉄片のように赤く輝いてい

た。(『三体』, 204)

例 34: 追隨者脱下了被汗水浸湿的长袍, 赤身躺到泥地上。(『三体』, 40)

日本語訳文: 従者は汗に濡れたローブを脱ぎ捨てると、砂地に体を横たえた。

(『三体』, 113)

例 31 から例 34 から見ると、I 状態変化型の中国語受身文においては、「動詞+結果補語」あるいは、「動詞+得+様態補語」の形で、状態変化の事象を表すことがわかった。文の他動性が高い場合、日本語の受身文に訳されやすいが、他動性が低いあるいは状態変化の結果のほうがより際立っている場合、日本語の自動詞文に訳されやすいという傾向が見られる。

次に、意味上の受身文の I 状態変化型の例文を取り上げて見てみる。

例 35: 一次下大雪, 那个天线立起来。(『三体』, 71)

日本語訳文: ある大雪の日、アンテナが展開された。(『三体』, 30)

例 36: 汪淼敲门, 门没锁, 开了一个缝。(『三体』, 26)

日本語訳文: 汪淼がその部屋のドアをノックすると、施錠されていないドアがすこしだけ内側に開いて、隙間ができた。(『三体』, 90)

例 37: 混乱很快平息了。(『三体』, 211)

日本語訳文: 混乱はやがて静まった。(『三体』, 311)

例 35～例 37 を見ると、この三つの文の他動性は明らかに例 31～例 33 より低いように見られる。今回の調査で収集した I 状態変化型の意味上の受身文はほとんど日本語の受身文と対応しているが、例 37 のように日本語の自動詞文と対応する例は 3 例のみである。

(2) I 位置変化型

今回の調査では、中国語受身文の I 位置変化型の出現延べ数は出現延べ数の上位 2 位のタイプとなっている。そのうち、「被」などのマーカーを用いた受身文の日本語受身文への訳出割合は 73.3% となっており、意味上の受身文の日本語受身文への訳出割合は 83.3% となっている。両方とも高いように見られる。以下では、まず「被」などのマーカーを用いた受身文の I 位置変化型の例を取り上げて、考察する。

例 38: 大树被拖走了。(『三体』, 69)

日本語訳文: 大木がひっぱられていく。(『三体』, 26)

例 39: 他们中的幸运者被重新搬入干仓, 还有大量的人干被丢弃在旷野上。

(『三体』, 47)

日本語訳文: 彼らのうち運のよい者はふたたび乾燥倉庫へと搬入されたが、大量の脱水体が荒野に捨て置かれた。(『三体』, 122)

例 40: 三体世界表面的一切都被吸向太阳。(『三体』, 165)

日本語訳文: 三体世界の地表にあるすべてのものが、太陽に向かって上昇してゆく。

(『三体』, 245)

例 41: 杨总工程师惊起地看着头发被汗水粘到脸上的叶文洁。(『三体』, 197)

日本語訳文: 楊チーフ・エンジニアは、汗でぐっしょり濡れた髪がはりついている文潔の顔を見て、驚いたようにたずねた。(『三体』, 292)

例 38 と例 39 においては、述語の「拖走」と「搬入」は行為として認められている。動作主の意志や、意識、自律的活動が見られる。この 2 つの例は日本語の受身文と対応している。一方、例 40 と例 41 においては、述語の「吸」や「粘」は行為として認められない。動作主の意志や、意識、自律的活動が見られない。この 2 つの例は日本語の自動詞文と対応している。以上の例から見ると、「被」などを用いた受身文の I 位置変化型は日本語の受身文に対応できるかどうかは、他動性と関わっていると考えられる。キネシスが行為で、動作主の意志や、意識、自律的活動が見られる文は日本語の受身文と対応する傾向が見られる。

意味上の受身文の I 位置変化型に関しては、今回の調査で収集した 12 例のうち、10 例が日本語受身文と対応している。残りの 2 例はそれぞれ日本語の他動詞文、名詞文に訳された。

(3) I 実行型

今回の調査においては、「被」などのマーカーを用いた受身文の I 実行型の例は見つからなかった。収集した 14 例の I 実行型の中国語受身文はすべて意味上の受身文となっている。そのうち、11 例は日本語受身文と対応している。以下では、日本語受身文と対応している例と対応しない例をそれぞれ 1 例取り上げる。

例 42: 执政官会议在巨摆纪念碑下举行。(『三体』, 271)

日本語受身文: 執政官會議は巨大振り子モニュメントのもとで行われた。

(『三体』, 395)

例 43: 她想到, 如果研究结束, 基地资料室为这个课题进行的资料调集和外文期刊订阅就会停止, 她就再也不可能接触到这么丰富的天体物理学资料了。(『三体』, 193)

日本語受身文: もしここで研究が終わってしまったら、基地の資料室はこのテーマのための資料収集や海外学術誌の購読をやめてしまうはずで、そうなるとうこんなに豊富な専門文献に接する機会が永遠に失われてしまう。(『三体』, 285)

今回収集した 3 例の日本語受身文と対応しない例のうち、例 43 のように、出来事が起こる終わりの局面を表しているものは 2 例あった。

4.2.3 中国語では能動文で、日本語では受身文の場合について

今回の調査において、中国語オリジナル小説では能動文であるが、日本語の受身文に訳された例が 282 例見つかった。それらの日本語受身文に訳された例を志波 (2015) の分類方法に基づいて分析し、結果は以下の表 7 で示す。

表 7：中国語オリジナル小説において能動文であるにも関わらず、日本語で受身文になる場合

受身文タイプ	日本語受身文の出現延べ数
II 構成関係型	8
II 内在的关系型	9
II 位置関係型	14
II 現象受身型	8
II 影響関係型	3
I 表示型	11
I 抽象的存在型	3
I 抽象的所有型	5
I 存在様態受身型	3
I 結果型	39
I 論理的操作型	1
I 判断型	1
I 社会的判断型	1
I 社会的評価型	3
I 社会的思考型	1
I 社会的約束型	3
I 実行型	19
I 思考型	8
I 所有変化型	3
I 特徴規定型	9
I 位置変化型	49
I 無変化型	1
I 限定型	1
I 意義づけ型	5
I 知覚型	17
I 状態変化型	54
I 社会的呼称型	3

表 7 から見れば、中国語オリジナル小説における能動文と対応している日本語受身文のタイプは I 状態変化型、I 位置変化型、I 結果型に集中している。この 3 つのタイプの例を見てみると、主に以下のような 5 つの場合がある。

- ① 中国語原文から日本語に訳す際、必要な説明が受身形式の連体修飾節として加わっている場合

例 44：飄浮在空中的人体在真空中血液沸腾，吐出内脏，变成了一团团由体液化成的冰晶云围绕着的形状怪异的东西。（『三体』，166）

日本語訳文：空中を漂う人体は、ゼロ気圧下で血液が沸騰し、内臓を吐き出してしまい、排出された体液がつくる氷の結晶に覆われた、奇妙な塊と化している。

(『三体』, 246)

- ② 中国語文における名詞句に他のモノとの位置関係を表す修飾節がついている場合、日本語に訳す際、I 位置変化型の受身になる場合。

例 45: 这光晕不是来自油灯, 而是地上的炭火照出来的。(『三体』, 222)

日本語訳文: これは行灯の光ではなく、床に置かれた炭火の輝きだった。

(『三体』, 324)

- ③ 名詞を修飾する動詞文を日本語に訳す際、受身形式になっているが、中国語原文の動詞文修飾節は能動文であるか意味上の受身文であるかを判断しにくい場合。

例 46: 她再次仰望天线, 感觉它像一只向苍穹张开的巨大手掌。(『三体』, 87)

日本語訳文: それは、空に向かって開かれた巨大な手のひらのようだった。

(『三体』, 52)

- ④ 中国語原文は自動詞文であるが、日本語の動詞文の受身形式に訳された場合。

例 47: 在林子的各个方向都有树木不断地倒下。(『三体』, 234)

日本語訳文: どちらの方角を見ても、木々が次々に切り倒されている。(『三体』, 341)

- ⑤ 中国語原文における「存現文」が日本語の受身文に訳された場合。この場合、訳された日本語受身文はI 結果型とI 位置変化型になる。

例 48: 黄铜带扣正打在他脑门上, 在那里精确地留下了带扣的形状, 但很快又被淤血模糊成黑紫的一团。(『三体』, 63)

日本語訳文: 真鍮のバックルが葉哲泰のひたいにぶつかり、そこにバックルのかたちがくっきりと赤く残されたあと、たちまち鬱血して黒紫色になった。

(『三体』, 17)

V おわりに

本稿は日本語と中国語のオリジナル小説およびそれらの訳本から非情受身文を収集し、志波(2015)に基づいて分類した上で、日本語と中国語の非情受身文の対応関係について考察した。

結果としては、以下の2つが挙げられる。

- ① 日本語オリジナル小説においては、出現延べ数の多い非情受身文のタイプはI 状態変化型、I 位置変化型、I 結果型、I 存在様態受身型となっている。I 状態変化型以外の受身文タイプは中国語受身文への訳出割合はそれほど高くないように見られる。I 状態変化型の受身文は中国語の受身文に対応できるかどうかは、動詞文の他動性と関わっていると考えられる。特に、キネシス、目的語に対する影響度、漸増主題があるかどうかなどの性質と関係しているように見られる。I 位置変化型に関しては、「被害」のニュアンスが強い文は中国語の「被」などマーカーを用いた受身文と対応しやすい。中国語の意味上の受身文と対応するか能動文と対応するかに関して、視点と関係していると考えられる。I 結果型とI 存在様態受身型の日本語受身文は中国語の「存現文」と対応しやすいと思われる。

- ② 中国語の「被」などのマーカーを用いた受身文のタイプはI 状態変化型、I 位置変化型、II 位置関係型に集中している。そのうち、特にI 状態変化型の出現延べ数が圧倒的に多い。

意味上の受身文に関しては、I 状態変化型、I 実行型、I 位置変化型の出現延べ数が最も多い。中国語の「被」などのマーカーを用いた I 状態変化型と I 位置変化型は日本語受身文と対応できるかどうかのも他動性と関わっていて、特に I 位置変化型の日本語受身文との対応はキネシス、動作主の意志、意識、自律的活動と関係しているように見られる。一方、I 状態変化型、I 位置変化型、I 実行型の意味上の受身文はほとんど日本語受身文と対応できる。

以上、本稿では、日本語と中国語の非情受身文の対応関係についてまとめた。山梨(2009)によると、文法の中核を成す構文は、外部世界の事態把握の認知モードを反映している。したがって、今後の課題としては、日本語と中国語の非情受身文の対応関係を手がかりにし、その背後にある事態把握の異同について探ってみたい。

参考文献

- 韓静妍 (2010) 「近代以降の日本語における非情の受身の発達」『日本語の研究』
6:4, pp.47-61
- 木村英樹 (1992) 「BEI 受身文の意味と構造」『中国語』6, pp.10-15 内山書店
- 志波彩子 (2015) 『現代日本語の受身構文タイプとテキストジャンル』和泉書院
- 陳婧璇 (2020) 「日中両言語の受身の使用実態と対応関係及びそれに基づく中国語母語日本語学習者の受身の誤用分析」神戸大学国際文化学研究所博士論文
- 張莉 (2017) 「非情の受身の状態の意味について」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』(2) pp.34-39
- 中島悦子 (2007) 『日中対照研究 ヴォイスー自・他の対応・受身・使役・可能・自発一』
おうふう
- 中村渉(2004) 「他動性と構文 I:プロトタイプ、拡張、スキーマ」『認知文法論 II』大修館書店
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法 2』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法 6』くろしお出版
- 劉月華・潘文娉・故鞏 (2001) 『实用现代汉语语法』商务印书馆
- 山梨正明 (2009) 『認知構文論-文法のゲシュタルト性』大修館書店